

服部英雄教授の退職に寄せて

堤, 亮介
元九州大学大学院生 | 嘉麻市教育委員会

<https://doi.org/10.15017/1508412>

出版情報：歴史を歩く時代を歩く：服部英雄退職記念誌：とことん服部英雄, pp.374-378, 2015-03-31. 九州大学大学院比較社会文化研究院服部英雄研究室
バージョン：
権利関係：



服部英雄教授の退職に寄せて

堤 亮介

出会い

先生との出会いは大学院受験を控え先生の研究内容等をお聞きするため長崎から先生の研究室を訪れた時の事だった。

研究室のドアをノックするとずっと奥の方から声がした。扉を開けるとそこには大量の本や段ボール、それらが声をかき消していた。奥に進むと作業スペースが見え先生が座っていた。というよりは所狭しと置かれ、溢れかえった史料や多くの荷物の中にできたわずかな作業スペース。パソコンデスクには竹竿が架けられ手ぬぐいやシャツが干されていた。デスクにはボイスレコーダーやマジックペン、ノートに混ざりお菓子やリング、ミカン（季節によってはカキやイチジク、ビワがあることも。これらの果物が何なのかは後に説明することとする）。部屋の隅にはリュックサックや鍋、カセット



【写真1】研究室入口より。

コンロ、登山道具等が置かれており先生と話す前にその独特なスペースに驚いたことを今でも覚えている。そして、当時私が行っていた研究の話、お互いの趣味の話、今後の展望等様々な事を話した。初対面

ではあったが話が弾んだ。

どんな事にも興味関心を抱き、人の話に耳を傾ける。その器の大きさと奢らない性格で人を受け入れる。人間味あふれる研究者、服部英雄教授にいつしか魅了されていた。



【写真2】竹竿。

先生の元で学びたい。という思いはいつしか確信へと変わっていた。この時はラーメン御馳走様でした。また、丸勝ラーメン行きましょう。一番うどんもいいですね。

ただ、にんにく、天かすは控えめに…。

先生のティーチングアシスタントとして…

私が入学して間もない四月末、先生より「来週学生の授業の下見で朝倉の江川に行くから学生の進む道をチェーンソーで切り開けないだろうか？それと当日の工程表を作っておいて欲しい」と頼まれた。チェーンソー？切り開



【写真3】道なき道を行く学生たち。



【写真4】今津元寇防塁の見学。

く？何のことを言っているのかさっぱり分からなかったがそれは後に判明する。

先生の講義『歴史の認識』は、学問は研究室、講義室の外にあるという理念の元、度々講義室を飛び出し現地調査に出かける。現地では古老からの聞き取り調査や史料調査、時には田植えや稲刈り、史跡見学等、フィールドワークでの実体験を通して学生に様々な事を学んでもらう。

そして二〇一一年四月二十四日（日）秋月の乱の舞台としても有名な「小石原川ダム水没予定地と古道栗河内・ハンドウ仏道」の調査を学生と行った。全学の講義であったため学生の数はおよそ二百五十人程。三台のバスに分乗して現地を訪れた。それだけでも大変である。

調査開始後、山の中腹まで登った頃だったのだろうか。小雨が降ってきた。「これは天の助け！」当然引き返すものと学生の誰もが思ったかもしれない。そんな学生の期待とは裏腹に「行くぞ！」と先陣を切つて山奥に分け入る先生。そして雨足は更に強くなり霧も出てきたが「ハンドウ仏までは行くぞ！」と更に突き進む。しかも、



【写真5】田植え、稲刈りで訪れた田染荘。



【写真6】伊都キャンパスの地名・歴史を説明する先生。

登山道もない倒木が入り乱れる道なき道を。チェーンソーでの道の確保はこの為だったか！とこの時実感した。

そして何より歩くのが早い。後ろを振り返ることもない。六十代とは思えない先生の体力、行動力に驚かされた最初の出来事であった。

それは尽きる事のない探究心、好奇心、自分の目で現場を見て確認するまでは決して納得しない先生の研究スタイルであることは後々わかっていく事となる。

私はTAとして学生に怪我のないよう、しんがりを務めることに必死であった。何とか怪我人もなく無事に終えることが出来てホッとしたが、これはこの先訪れる数々のフィールドワークにおけるTAのほんの序章に過ぎなかつたのである（笑）。

この時生まれた服部語録は

「僕の前には道はない。僕の後ろには道はできる。」

人のやらないことをしないと新しい研究はできない」であった。

常に通説・多勢側に疑問を投げ、決して枠に収まらない研究を実践し続ける先生らしい言葉だったんだと今これを書きながら納得したところである。

時に修業のような先生の講義を学生たちは「歴史の認識」ならぬ「命の再認識」と称していたとかいないとか…（笑）

先日当時の学生に会った際、やはり先生の講義はインパクトがあつて一番面白かつた。今でもあの時、泥まみれになって山に登ったことや暑い真夏に自転車をこいで行った今津の元寇防塁の見学、帰りに見た海と夕日は忘れられないと話していた。

調査から帰って来て夕涼みをしながらか食べたカレーは美味しかったですね。

調査、研究、そして遊び

先生とはいろんなところに遊び…いや、調査に出かけた。お互いの趣味の一致もあり休日には様々な場所を訪れた。



【写真7】雪中登山。九大山の家にて。

山は中岳、久住、大船、柑子岳、栗河内、雷山、井原山。温泉は釜の口温泉、あさくら温泉、卑弥呼の湯、九大山の家、小松地獄。他にも田染の荘、白糸の滝、長崎県大瀬戸町、今宿花火大会、カキ小屋、杉能舎、猪試食、花見、ホタル見物、紅葉狩等々。

マイナス十度の中登った久住の雪中登山は非常に楽しかった。韓国から来られた趙正民さん、金美子さん方は風邪をひかれていたにも関わらず登頂したのには驚いた。雪中登



【写真8】風穴に入る分け入る先生。

であった。全く危険を顧みない。

登山には比文の留学生たちを連れて登ることもあった。その際はおのずと私が留学生たちのアシスタント役になる。様々な国籍の留学生をまとめるのは大変であったが今となつては良い経験である。山や自然の魅力、日本の文化、歴史について留学生たちに語る先生の姿は印象的であった。そのため留学生たちからも先生は人気で、おそらく服部先生を知らない者はいなかったと思う。乱舞するホタルは留学生一同皆感動していた。しかし、前日の酒がたたり次の日先生が寝坊をした。どうかこれからもお酒は控えめに（笑）

今宿花火大会は「歴史の認識」の補講後、学生も参加した。それもテスト前にもかかわらずほとんどの学生が参加。十人くらいはいただろうか。花火終了後そのまま打ち上げの流れとなり、結局先生が奢る羽目に（笑）泣く泣く男気を見せる先生が面白かった。この時初めて目の前で炸裂する尺玉を見た。その迫力に圧倒され感動したのを覚えている。先生は常にその魅力について語っていた。

長崎県西海市大瀬戸町を調査で訪れたのは私が入庁する二日前であった。大瀬戸町の夕日は本当に素晴らしかった。

先生はどんな時も遊び心を忘れない。どんな環境でもその場を楽しむことのでき



【写真 9】紅葉狩り。千如寺にて。山中にてホッケ、カキ、刺身を食す。



【写真 10】留学生交流登山。久住山にて。登頂を果たした留学生と記念に。

多くの知識と風流な精神を持たれている。
様々な場所を訪れ先生の傍にいただけでそれ自体、私にとっての特別講義であった。
多くの事を学ばせていただいたと思う。

このように様々な場所を訪れる先生ではあるが実は車を運転されない。どこかに行く際は必ず私が車を出すことに（笑）さらに携帯も持たれていない。連絡を取るのは大変困難であった。

ゆっくりされたら次は魚釣りにでも行きましょう。



【写真 11】今宿花火大会。尺玉を見上げる。長垂海浜公園にて。



【写真 12】西海市大瀬戸町の調査。ホゲツウ前にて。

カキ、イチジク、ビワ「果実収穫祭」

秋になると九大のキャンパスの中にも様々な果物が実る。その場所を把握し、心待ちにしていたのは私と服部先生くらいだろうか。真夜中に研究室を抜け二人で伊都キャンパスの渋柿を盗み：いや、収穫しに行ったこともあった。渋柿の毒見をさせられたこともしばしば…。冒頭で述べた机の上に置かれたカキやイチジク、みかん等の正体はこれであった。

先日、先生の奥さんに六本松キャンパス時代、学生にビワを収穫させている現場が掲載された記念誌を見せていただいた。正しく常習犯である（笑）

これは今だから言えるが、実は生物多様性ゾーンにてアケビの収穫ポイントを見つけていた。服部氏に荒らされるのを危惧し今日まで内緒にしていた。

この場をお借りしてお詫び申し上げます。



【写真13】デスク上のミカン達。

イノシシとウサギ

先生と車で帰宅する際、伊都キャンパスの前の道路に黒い物体が横たわり動いてた…。私は瞬時にイノシシであることに気づき先生に伝えたとこ確認しようと言う。すぐさま引き返して見てみると事故に遭い苦しむイノシシであった。足を怪我しており歩くことは出来ないようだった。

この時生まれた服部語録は

「持って帰るぞ！ 車に乗せられるか？」
であった。

わたしもそういうのは好きな方である。とりあえず「どうするんですか？」と聞くと「その居酒屋に持って行ってさばいてもらったのは言うまでもない。

もちろん全力で阻止し、警察の方に処理してもらったのは言うまでもない。

ウサギの話は文字数の関係上先生のホームページをご参照して頂きたい。（閲覧注意！）

学府長就任

学府長に就任された年は連日の公務に自身の研究と過密なスケジュールに追われ、大変忙しい時間を過ごされていた。ほぼ毎日近くで見れていたが先生の体調が大変心配であった。それにもかかわらず、修士論文のアドバイスや、学生の授業の打ち合わせなどに時間を割いていただき本当にありがとうございました。

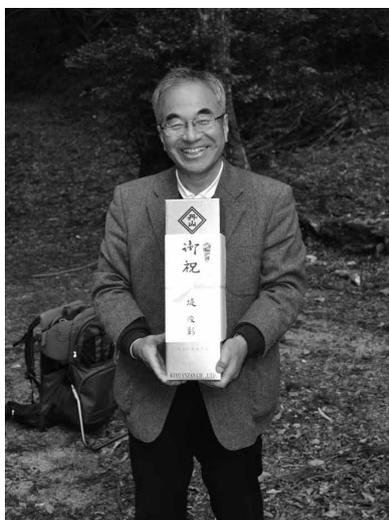
入学式、修了式で「未曾有」の言葉を引き合いに、学問を尊重する事の重要性を話される姿には大変感銘を受けました。

学府長の大役本当にお疲れ様でした。

最後に

私は先生の元で様々な経験をさせて頂き、多くの事を学ばせて頂いた。大学時代には見る事の出来なかつた新しい世界をたくさん見せて頂きました。それは私の人生において大変有意義な時間であったと感じています。今後ともお世話になると思いますがどうかよろしくお願いいたします。

飽くなき探求心は尽きる事なく、今後ますますご活躍されることと思います。研究者服部英雄にとつて「退官」は人生における単なる通過点に過ぎないのかもしれませんがひとまずお疲れ様でしたと言わせて下さい。



お疲れ様でした。

最後になりましたが服部英雄教授のますますのご活躍とご多幸を祈念しご退官に寄せの言葉とさせていただきます。

（元九州大学院生、

嘉麻市教育委員会）